

## 事業計画書

事業名	歌声伴奏サービス事業
場所	沼津市内全域
実施予定期間	平成 29 年 7 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
日程	実施項目・作業項目
	<p>現在、高齢者社会の進展により、65 歳以上の人口は、現在 3,000 万人を超えるなど（国民の約 4 人に 1 人）、高齢者介護の問題・介護予防の推進については大きな社会問題となっており、これらについては、自治体の自主性や主体性に基づいた施策を進めていくことが求められております。</p> <p>このような状況において、アメリカをはじめとした海外の高齢者施設等では、音楽療法が認知症の予防・治療に効果的であるということで普及してきているものの、日本では音楽療法についての公的な位置づけ（資格等）がないことから、スキルのバラツキや費用面などの問題で、理解がある一部の施設でのみ導入されるか、ボランティアによるレクリエーションの一環といった位置づけとなっているのが現状です。</p> <p>これまで当団体は、音楽療法に理解のある県外の高齢者施設を主体として 10 年間、高齢者が参加し一緒に歌う音楽療法（音楽イベント）に取り組んできましたが、これまでの活動実績を活かし、今後は市内の高齢者施設のみではなく、一般の方にもこの活動が理解されるような普及活動を進めるとともに、同事業を担う人材を育成する事業を実施していきたいと考えています。</p> <p>※ 音楽療法 音楽を通じて脳を活性化させるリハビリテーション法のひとつとして考えられている。 効果として脳を活性化させるばかりでなく、気持ちを落ち着かせるリラクゼーション効果もあり、食欲が増す、ぐっすり眠れる、笑顔が増えるなどの好ましい結果を生み出しており、認知症患者が利用する多くの施設で実施されている。 音楽は「記憶の扉を開けるカギ」とも言われており、子どものときに歌った唱歌や若いころに流行した曲を選ぶと、回想法と同様に昔のことを思い出して、さらに脳を活性化させる効果も期待できるとされている。</p> <p>事業内容</p> <p>① 市内高齢者施設における音楽療法（音楽イベント）の啓発・体験 沼津市には、特別養護老人ホームから小規模のグループホームなどを含め 100 前後の高齢者向けの施設があります。 これら施設を対象に音楽療法の理解を深めていただくため、専門の講師によるセミナーを開催し、各施設の職員・入所者等への理解を深めていくとともに、実際に音楽療法（音楽演奏）を体験していただき、その効果を理解してもらい啓発活動を行います。 （演奏は、キミスタ所属ユニット 883 's が実施）</p> <p>② 音楽療法を担う人材の育成・マニュアル（譜面・歌詞カード等含む）の作成 音楽療法については、公的に規定されたものが存在しませんが、一般的には対象者 30 名以上の集団セッション、対象者 10 名前後の小集団セッション、一人を対象とした個別セッションなどがあり、時間として通常 40 分から 60 分程度であり、広めの部屋に集まり、五感を刺激するような話も含め</p>

	<p>ながら馴染みの歌を歌い、軽い運動も併せて行う内容としていきます。</p> <p>人材育成については、事前のレッスンと、現場での実習によりスキルを身に付けていただくことを主眼とし、それぞれのセッションに応じたマニュアル(譜面・歌詞カード含む)作成を進めプログラムを構築していきます。</p> <p>スケジュール 7月～3月(週1回程度:年間36回) 市内高齢者施設等への啓発活動・セミナー・音楽療法(音楽イベント)の実施、人材育成の実施(技術指導・リハーサル等)</p>
事業効果	<p>当団体は、市内大岡にプライベートスタジオを設置し、ここを拠点としたギター教室・公演活動に取り組んでおり、学生・社会人、高齢者まで幅広い年齢層によるレッスン生が所属しております。</p> <p>レッスン生が音楽療法のノウハウを学び、新たに社会参画していくことで、音楽を通じた新たなコミュニティの創出、多様な主体が高齢者を支える体制が整備されていくものと考えています。</p> <p><b>音楽療法(音楽イベント)開催数 36回(36施設)</b></p>

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

公益性	<p>現在、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築が求められており、幅広い年齢層の市民の参画により、介護予防の取り組みが検討されています。</p> <p>本事業は、市内において認知度が低い、高齢者に対する音楽療法の普及と、これに参画する新たな人材の育成を行うものであり、高齢者福祉・介護予防施策における国・市が進めている方針に合致したものです。</p>
発展性	<p>これまで認知度が低かった音楽療法を体験していただくことで、新たな介護予防施策への理解、これを担う人材の確保が進展し、同じ志を持つ市民のコミュニティの構築が進んでいくことが見込まれます。</p>
地域性	<p>対象を市内高齢者施設とし、地元のレッスン生を育成して指導者としていくことから、地域住民による地域内の共助体制の整備が可能である。</p>
必要性	<p>音楽療法の効果については、これまでの実績から実証できているものの、市内においては認知不足である。周知にあたっては、まず体験し・効果を確認していただくことになるが、実施における費用を当団体だけで確保していくことが困難であることから、本制度を活用していきたい。</p>
先導性	<p>音楽を媒体とした、新たな介護予防施策の取り組みを推進していくことにより、市内の演奏家を高齢者福祉、介護予防の施策に参画させていくことが可能となる。</p>
継続性	<p>現在、音楽療法の効果・必要性が理解されていないことから、これに対して対価を支払う仕組みが構築されていない状況である。</p> <p>そのため、音楽療法の必要性を把握していただくことで、将来的にそれぞれの施設からの資金調達が可能となるよう検討していきたい。</p>